

○ 議 事

■議題① 平成30年度の活動報告

県、（一社）長崎県建設業協会長崎支部、（一社）長崎県建設環境組合、（一社）長崎県地質調査業協会、（一社）長崎県港湾漁港建設業協会の順で報告

■議題② 令和元年度の活動予定

県、（一社）長崎県地質調査業協会から報告

◎防災演習1

- 防災演習1の情報伝達訓練におけるスマートフォン操作を確実にを行うため、「スマートフォンへのシステム設定と活用方法」について説明を行う。
- その後に、地震に伴い想定される2箇所の被災に対する応急対策 演習を官民混合で編成した6チームに分け、ワークショップ形式で行う。
- 災害支援協定締結6団体とも、「割り当て人数を出席させること」及び「開催日時」に、特に問題ないことを確認した。

◎防災演習2

- 防災演習1で担当者へ周知を図ったのち、防災演習2として初動対応訓練を実施する。
- 参加団体としては、昨年と同様、災害支援締結6団体で実施する。
- 大規模な地震災害を想定し、現地確認の場所については、あらかじめ設定した10箇所程度を想定し、報告を行う。内、1～2箇所についてUAVによる撮影写真を報告する。

■議題③ 近年の被災状況と災害情報収集の取り組み

近年土砂災害が甚大化また頻発化している中にあり、国においては、情報収集の手段として、人工衛星画像や航空写真を用いた調査なども行われ、二次災害防止のための技術的助言などを行う土砂災害専門家の派遣に繋がられていること、また、目視できない箇所や危険な場所など、UAV（ドローン）を活用することで、迅速で的確な情報収集が可能となり、災害防止対策に繋がっていることがなどを紹介した。

また、昨年大雨特別警報が出された7月の豪雨により被災した箇所の報告を「ハザードマップ作成支援システム」を活用したスマートフォンで行うとともに、UAVでの撮影も合わせて行うことで、より詳細な情報収集が可能となることを説明した。

その他、円滑な災害支援体制の確保に繋がるよう、本年度から新たな情報として導入されている警戒レベルについて、情報提供を行った。



[説明 事務局 平本主任技師]

●人工衛星画像（SAR）を用いた広域的調査

夜間や曇天時でも観測可能な人工衛星画像（SAR）解析により土砂移動推定箇所を判読。6県で41箇所を抽出し、ヘリ等により調査を実施。



●人工衛星画像、航空写真を用いた概略調査

人工衛星画像（光学）、航空写真、防災ヘリ画像を活用し、土砂災害発生状況を確認。



●土砂災害専門家の派遣

空中写真判読等により激甚な被害が確認された土砂災害集中地区について、二次災害防止のための技術的助言を行うため、土砂災害専門家（TEC-FORCE 高度技術指導員）を広島県、愛媛県等に派遣。



【人工衛星を活用した調査】

○ H29.7.7 (金) 大分県日田市小野地区で発生した斜面の崩壊を調査するため、九州地方整備局 TEC-FORCEのドローン飛行部隊を現地に派遣。



【ドローン使用状況】



【H30.7 情報伝達】

警戒レベル相当情報	
警戒レベル5相当	<ul style="list-style-type: none"> ・氾濫発生情報 ・大雨特別警報（土砂災害） ・大雨特別警報（浸水害）
警戒レベル4相当	<ul style="list-style-type: none"> ・氾濫危険情報 ・土砂災害警戒情報 ・土砂災害に関するメッシュ情報（非常に危険）（極めて危険） ・洪水警報の危険度分布（非常に危険）
警戒レベル3相当	<ul style="list-style-type: none"> ・氾濫警戒情報 ・大雨警報（土砂災害） ・土砂災害に関するメッシュ情報（警戒） ・洪水警報 ・洪水警報の危険度分布（警戒）
警戒レベル2相当	<ul style="list-style-type: none"> ・氾濫注意情報 ・土砂災害に関するメッシュ情報（注意） ・洪水警報の危険度分布（注意）
警戒レベル1相当情報	<ul style="list-style-type: none"> ・予告的気象情報

【R1 導入の警戒レベル】

【閉会（まとめ）】

●令和元年度の活動について

連絡体制の強化と対策技術の維持向上を図るため、昨年度と同様に防災演習1（応急対策演習）と防災演習2（初動対応訓練）を継続して実施する。

なお、防災演習2の初動対応訓練では、「砂防課開発アプリを活用したスマートフォン」を主体に「従来のメール」も選択可能とした情報伝達、並びに被災想定1～2箇所UAVによる被災状況の撮影を要請する。

以上について確認し、閉会した。



【意見交換の様子】